令和６年度学校評価結果について

広野小学校長　大和　利弥

Ⅰ　学校評価の実施について

広野小学校では、令和６年度の学校評価を以下の方法で実施した。

１．評価基準は「Ａ：はい　Ｂ：どちらかといえば『はい』　Ｃ：どちらかといえば『いいえ』　Ｄ：いいえ」に統一した。その上で、「Ａ：はい」「Ｂ：どちらかといえば『はい』」を高い評価として捉え、それ以外を低い評価（反省すべき項目）として、その要因を分析した。
２．アンケートを通じた児童、保護者、教職員の評価について、令和５年度と比較し今年度の教育について分析した。分析では、まず、継続して高評価のものはさらなる向上を目指す。また、重点項目について、前年度より優れていたもの、逆に劣っていたもの、前年度同様に評価の低かったもの、今年度の教職員が低い自己評価をおこなったもの等について取り上げ、分析した。
３．アンケート項目のうち、児童、保護者、教職員の３者を比較し分析する上での判断材料とした。
４．上記の方法でまとめたものを、学校を外部から観察していただいている５名の学校運営協議会委員の方に送付しご意見を伺った。ここでご指摘いただいた内容についても、教職員の反省を加え末尾に掲載している。
５．まとまった学校評価については、今年度中に広野小学校ホームページで公表予定。

Ⅱ　アンケート分析と考察

１．継続してよかった評価

（１）授業や活動について

（アンケート該当項目　児童４、６、７、１４　保護者２、３、４　教職員２、３、７）

どの項目も継続してよい傾向にある。特に授業中の発言や勉強時間に新しいことを知ることが楽しいと感じている児童がほとんどである。少人数のよさを生かして児童の実態を把握し、教師が一時間のねらいをもつとともに、学習課題やめあてを提示し、授業を進めている。そして、発問内容の意図を考え、児童の意見を大切にしている授業を展開しているからである。また、体験的な学習を多く取り入れるとともに、ＩＣＴを活用し分かりやすい授業をこころがけていることが、アンケートの結果からうかがえる。さらに、児童の発言内容を受け入れる雰囲気が学級にあるからだと思う。

また、掃除の取りかかりもはやく、最後まで一生懸命する児童も多い。異学年活動（チーム活動）を実施し、児童が自ら考え、実践できる活動を継続しているからだと思う。外遊びについては、大谷グローブの影響が大きく、休み時間に野球を楽しむ児童が増えた。一方で、読書や工作を望む児童もおり、分かれた結果となった。今後も児童が楽しく活動し、分かる授業や児童が主体的・協働的に活動できる取組を続けていきたい。

（２）学校生活・友達関係について

（アンケート項目　児童８～１３　保護者５　教職員５、１２）

学校へ行くのが楽しいと思う児童の割合が高い。また、学級の友達だけでなく他の学年の子と活動することを楽しく、その中で、自分の話を聞いてくれる友達が多いと感じている。それは、異学年活動（チーム活動）が充実しており一人一人の役割がある活動や行事を実践しているからだと考えられる。さらに、今年度は、活動に取り組む前や途中で話し合う場面も見られ、自分の意見や考えを受け止めてくれる友達や仲間・教師の存在も大きいと思う。ここから、児童相互の人間関係や児童と教師の人間関係も良好であることがうかがえる。また、友達の頑張りやよいところを認めた「ありがとうメッセージ」の掲示や、保護者から我が子におくるメッセージ「心の架け橋」も子ども達の自己有用感を育てる取組となっているので継続し、いじめのない学校づくりに取り組みたい。

（３）環境や施設・設備の安全点検、安全確保について
（アンケート項目　児童１４、保護者６、１５、１６　教職員１４、１５）
　教室や廊下の整理整頓ができており、校舎内の環境が整備されている。さらに、校舎内での事故を未然に防ぐために、施設・設備の安全点検や迅速な修繕・修理を行う体制が整えられている。登下校の安全確保や災害を想定した避難訓練も年間を通して実施しているが、不審者対応訓練ができていないので来年度は実施する。
　児童は時間いっぱい一生懸命掃除を行う習慣が身についている。縦割り班清掃（チーム清掃）や朝のボランティアタイムで高学年が率先して掃除を行うことで、全校児童が短い時間で掃除を終えることができ、校舎内外の美化が保たれている。災害はいつどのような状況で起こるか分からないため、今後も様々な状況に対処する訓練や危機管理マニュアルの改善点を生かした安全確保・避難訓練を計画していく。

２．重点項目に関わる評価
（１）基本的な生活習慣について
（アンケート項目　児童１、２）
　朝ご飯を毎日食べて登校していると答えた児童は、９０％であり、昨年度よりわずかに減少している。朝ご飯の大切さを食育指導等で児童に伝え、保護啓発も行われており、朝ご飯の大切さについては浸透してきている。また、食育パワーアップ作戦等で関係諸機関と連携をして取り組んでいるが、「どちらかといえば『いいえ』」と答えた児童が３名と増えており、保護者への啓発も含めて継続して取り組んでいく必要がある。早寝早起きについては、「できている」児童の割合は増加しているものの、「どちらかといえば『はい』」の割合が減少、「どちらかといえば『いいえ』」の割合が増加している。低学年の児童の割合が多かった。就寝時刻が遅く、そのことが一日の生活リズムに影響を与え、起床時刻も遅くなる傾向にある。また、メディア使用時間も影響しており、長時間使用と深夜までの使用の傾向もみられる。メディア使用については、「メディアコントロールチャレンジ」を今後も継続し、家庭と連携し使用時間とその影響等を啓発していく。

（２）あいさつについて
（アンケート項目　児童３、保護者１、教職員４）
　児童・保護者・教員とも継続してよい傾向にある。あいさつの大切さを常時指導し、児童が日々実践しているからである。また、朝のあいさつだけでなく、職員室の出入り・給食配膳時のあいさつなど、よい伝統が引き継がれている。家庭においてもあいさつの大切さを話していただき、家庭でも実践していただいているからだと思う。子ども達が作成した「広小人研宣言」の最初の項目にも「明るく元気なあいさつで相手を笑顔にしよう」が掲げられており、児童一人一人にもよりよい挨拶が意識できている。今後も、継続的にあいさつについて話をし、「声の大きさ、相手の顔を見て、相手より先にあいさつする」ことができるようにしていきたい。

（３）家庭学習について
（アンケート項目　児童１５、保護者８）
　昨年度と比べ、自信をもって「はい」「どちらかといえば『はい』」と答える児童の割合が少し減少している。学童で宿題を終わらせ、家庭での学習が十分できていない児童がおり、宿題をふくめ家庭での学習意欲低下の傾向が見られる。ほとんどの児童が、毎日宿題を提出できているが、家庭で音読や日記、休日での学習が十分ではないことが分かる。家庭での音読や日記は継続して行う。また、休日家庭でする課題を出す等、学年の発達段階に応じて課題の出し方や内容を検討するとともに、保護者にも家庭で児童の自主学習や読書、日記を点検してもらうなど協力体制を築いていく必要がある。

（４）学校や家庭での読書活動について
（アンケート項目　児童１６、保護者７、教職員７）
　「家や学校で読書ができている」の項目に対して、肯定的な児童の割合が１８％減少している。また、保護者の結果も肯定的な評価の減少が見られ、家庭において読書習慣

が十分身についていないことがうかがえる。この傾向は以前から見られ、重点項目にあげられるが、取組が成果につながっていない。読書内容や読む本についても課題があるように思う。朝の活動等で読書の時間が日課表の中に組みこまれており、学校での読書の時間は確保されているが、家庭での習慣づけが課題である。メディア使用時間も含め、生活習慣とも関係があると思われるので、改善していく手立てを考えていく。

（５）情報発信・情報公開について
（アンケート項目　保護者９、１０、教職員１６）
　学校の教育目標や経営方針については、昨年度の学校評価結果をもとに、ＰＴＡ総会や役員会、学級懇談等で伝えるだけでなく、学校だより等で家庭に伝えることで、保護者の理解が進んできている。児童の活動の様子は、ホームページや学校だより・学年だよりに、保護者へのお知らせ等を掲載し、情報発信を行っている。特に、ホームページでは、様々な教職員が学習や行事の様子を更新し児童の学校での様子や教育活動が分かるようにしている。しかし、ホームページ閲覧に関しては、率は低下傾向にあり、「ほとんど見ない」割合は５０％と高かった。保護者のニーズに合っているかどうかも含めて方法を検討していきたい。

（６）開かれた学校づくりについて
（アンケート項目　保護者１２、１３、１４、１７　教職員２０、２１、２２）
　どの項目もほとんど肯定的な評価となっている。本年度は、防災訓練や防災キャンプ等の職員と保護者、保護者同士が繋がる行事が増えたことも影響していると思われる。また、電話連絡等で児童の学校の様子を伝え、保護者との連携を常々行っている。今後も授業参観等を通して児童の活動の様子を見ていただいたり、保護者ともに活動できる内容を考えたりと、開かれた学校づくりに努めていきたい。そのためにＰＴＡ役員会や学年部会での意見交換を充実させ、更なる連携を図っていきたい。

Ⅲ　学校運営協議会委員からの意見

○保護者の項目では、ほとんどが肯定的ではあるが、項目１３、１４について「どちらかといえばいいえ」にそれぞれ１名ずつ回答があることが気になる。からかいなどもあるが、いじめとの線引きが難しい。
○子どもの意見を聞いて受け止めることは大切。学校の様子は分からないので、教員が保護者と連絡を密にしてすすめていくことが大事だと思う。
○学力の定着について、宿題はほとんどの子が学童でできているが、家庭での学習習慣がついているかどうかは、各家庭による。家庭学習や週末読書、メディア使用時間等の課題について、学校と家庭が連携して継続して取り組む必要がある。

Ⅳ　改善に向けての具体的な取り組み

今回の学校評価を踏まえ、次年度は以下の点を重点課題として取り組む。

１．　学力向上に向けて
(1) 基礎学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実践
　学習内容の定着を図るため、ドリルやプリントを活用し、反復学習を行う。また、児童の実態に応じた個別課題を設定し、個別に対応する学習を進める。
　児童が自分の考えや思考の過程を文章にまとめ、発言できる力を育む。また、学級内にとどまらず、低・中・高学年のグループで話し合う機会を増やし、対話的な学習を促進する。
　校内研修を通じて学習状況や課題を分析し、教職員間で共通理解を深める。さらに、ＩＣＴを積極的に活用し課題に応じた少人数授業の研究や研修を進める。

(2) 家庭学習の取り組み
　家庭学習の手引きを再確認し、学年に応じた課題を提供する。また、保護者への説明を継続し、宿題以外の家庭学習の習慣を定着させる。
　週末課題を設定し、自主学習の充実を図るため、テーマや課題を提示する。優れた

自主学習ノートを掲示し、児童の学習意欲を高める。
　保護者や学童と連携し、平日は音読や日記を必ず家庭で行うよう指導する。また、週末には家庭学習の課題を設定し、保護者がチェックできる機会を設ける。

（3）読書習慣の定着
　読書活動の時間を見直し、本の選択や内容を工夫する。児童の読書意欲を高めるための取り組みを教職員で検討する。
　親子読書や学校での読み聞かせを実施し、本に親しむ機会を増やす。また、週末読書を課題とし、読書量を確保する。

2. 基本的な生活習慣の確立
（1）規則正しい生活の習慣化
　生活リズムチェックを活用し、児童が自分の生活リズムを見直せるよう指導する。また、保護者への啓発を継続し、協力を求める。
　「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を定着させるため、保健学習や学級活動を通じて指導を行う。保健だよりや学年だよりを活用し、保護者と連携を強化する。

（2）メディア使用
　長時間使用や深夜使用が見られる児童には個別指導を行う。また、学級懇談や学年・保健だよりを通じて、保護者への啓発を進める。
　メディアの長時間使用が健康に及ぼす影響について、保健学習を通じて児童に考えさせる。さらに、講演会や研修を実施し、保護者にも情報を提供する。

（3）あいさつの習慣化
　あいさつの重要性について、朝会や学級活動を通じて継続的に指導し、「いつでも・どこでも・だれにでも」あいさつができるようにする。また、教職員も率先してあいさつを実践する。
　地域の協力を得ながら、学校・保護者・地域が一体となり、より良いあいさつの習慣を定着させる。

3. 開かれた学校づくりと情報発信
（1）ホームページ・学校だより・学年だより
　学習や行事の様子を掲載し、継続的に更新する。まちコミメールを活用し、ホームページの閲覧を促すとともに発信内容を工夫する。
　学校だより等にホームページの QR コードを掲載し、スマートフォンなどから簡単にアクセスできるようにする。

（2）PTA 活動・保護者との連携
　参観日や行事の機会を捉え、保護者同士がつながれる機会を設ける。保護者の意見や要望に対しては、話し合いを通じて連携を深める。児童・保護者・教職員がともに意義のある PTA 活動を行う。

4. 働き方改革
　教職員が自身の業務内容や勤務時間を見直し、効率化を図る。また、年間行事を振り返り、必要に応じて精選・見直しを行う。
　教職員の意見を反映させるため、研修にグループ討議を取り入れ、率直な意見を交換できる場を設ける。